

若者が 21 世紀を拓く場づくりを

5月10日に開催した「人と地域の研究所」設立記念のシンポジウム、交流会に、お忙しい中（あるいは連休最後の日曜でゆっくりお休みするはずのところ）多くの方々にご参加いただきました。またご参加いただけなかった方からも、たくさんのメッセージをお寄せいただきました。改めて厚くお礼申し上げます。

当日参加者の皆さんに「人と地域の研究所に期待するもの」を漢字一文字で書いていただきましたが、その中に「絆」「交」「繋」「結」「接」などの文字がありました。当研究所が目指す「ネットワーク」づくりに対する期待の大きさを感じました。

当研究所の「こころざし」は「同じ志をもつ人たちと連携をつくりだし、人と地域が抱える課題について学び考え、若者たちとともに未来を創っていく、アクションを起こしていく」ことであり、私たちの活動のキャッチフレーズは、「若者×いなか」「未来を耕すネットワーク」です。

当日も多くの学生たちが「いなかインターンシップ」やその他の活動を通して、地域やそこに住む人たちと関わって多くのことを学んだと生き生きと発表してくれました。

「21世紀を担うことになる学生・若者たちに何ができるのか」。これは教員生活を通して考えてきたことです。彼らに私の思いを伝えることはできるが、「教える」ことはできないし、してはいけないと、現時点で私は考えています。私が育ちその中でもものを考えてきた社会は、20世紀社会です。私たちができること、しなければいけないことは、彼らが21世紀の現在・未来を切り拓いていく力を「自ら育む『場』」を作ることだと考えています。当研究所の活動がそういう「場」の一つになればいいと思います。

他方、地域（いなか）はきわめて困難な状況に置かれていますが、都市や職場等における機能的な人間関係とは異なって、「地域」「いなか」には人々の「生活」・生業（なりわい）に基礎を置くトータルな人間関係、コミュニティがあります。そのことが21世紀を担う「若者」のいわゆる「人間力」を育む最良のフィールドの一つになり得る理由です。もちろん急速に壊れつつあるのですが。生産と生活の場としてのコミュニティの「再建」は21世紀の重要な課題であり、そのことに基礎を置かない社会は「砂上の楼閣」だと思っています。

発足したばかりで今後どのような具体的な事業を展開していくのか、「いなかインターンシップ」や嶺北での勉強会などこれまで実績があるものは別として、必ずしもはっきりしていません。しかし「人と地域」にあくまでもこだわって活動をしていきたいと考えています。またそのことを通して「共感」「協働」のネットワークの輪を広げたいと思っています。同じ方向性の志をもっている人々からのご連絡をお待ちしています。

特定非営利活動法人 人と地域の研究所

理事長 松永 健二